

越山若水

2021.3.28

日本の百貨店は1904(明治37)年、三井呉服店から改称した三越呉服店による「デパートメントストア宣言」が産声とされている。日本橋三越本店が百貨店のル

ーツ店舗という▼ちなみに、三越の名前は財閥家の三井家と創業時の呉服店「越後屋」の頭文字の組み合わせで、店章「丸に越」はよく知られる。今日では伊勢丹と経営統合し、持ち株会社三越伊勢丹ホールディングスの傘下で運営される▼百貨店化した三越の経営方針は「学俗協同」という。「学問に精しく文芸美術に秀づる碩学天才」の協力を得ての経営を目指した。文豪森鷗外が「三越」と題する詩を詠んでいる(「三越誕生!」和田博文著、筑摩選書)▼福井に初めて百貨店が登場するのは28(昭和3)年。西武福井店の前身のだるま屋だ。創業者の坪川信一らの経営者は福井師範出身の先生で、「コドモ百貨店」を旗印にした。接客サービスなどが人気を呼んで、人通りの少なかった駅前通りを銀座並みの繁華街にする。報知新聞は天下一品のデパートと報じた▼さて、西武福井店が新館の閉鎖に伴い、人気テナントを本館に移して改装オープンした。「『だるま屋』から創業100年に向け、地域に改めて支持される百貨店を目指したい」との未来志向のメッセージは頼もしい。人口減少などで地方百貨店の苦戦は続くが、地域の顔であり続けてほしい。